平成２３年度久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画　推進協議会
第２回会議　会議要録

開催日時：平成２３年７月１４日（木）１７：３０～１９：３０
会　場：久留米市庁舎２階 くるみホール

■ 出席委員：日高委員 大石委員 友安委員 荒巻委員 大久保委員 今里委員 柴田委員 椛委員
柄澤委員 西田委員 濵本委員 久保委員 足達委員 岩坂委員 伊藤委員 諸藤委員
仲委員 四ヶ所委員 縄崎委員 猪口委員 加藤委員
■ 欠席委員：１名
■ 傍 聴 者：０名

■ 次第

Ⅰ．会長あいさつ

Ⅱ．報告
１．高齢者実態調査及び介護事業所調査結果報告
２．団塊世代の意識・実態調査の実施について
３．介護サービス見込み量推計及び保険料算定の流れ

Ⅲ．その他

■ 会長あいさつ

■ 北野氏の委員辞任について、事務局より報告

■ 報告

１．高齢者実態調査及び介護事業所調査結果報告

【事務局】資料１説明

○ A委員

調査結果の説明の中で老人クラブに参加していない高齢者が多いということだが、その理由として考えられることはあるか。

○ B委員

理由をたずねる設問があり、これは報告書に盛り込まれている。結局のところ、自分が老人であるという意識には至っていないということではないか。交通手段の面でも、なかなか出て行きにくいという部分もあるようである。

○ 事務局

参加する高齢者は積極的に参加しているようであるが、高齢者の中で意識の差があり、参加する人としない人との二極化が進んでいるように思う。

○ A委員

鬱や引きこもりに対して、どのように参加を促していくかということも、とても重要であるように思う。また、女性は比較的参加しているのに男性は参加していないなどといった部分も見受けられるので、性差にも着目して調査をすると今後の対策にも繋がってくるのではと思う。

老人クラブの参加について、自分を老人と意識していない人が多いとのことだが、前回の調査と比較して回答者は若年層が多かったのか。

○ 事務局

どちらの調査も、調査対象者はそれぞれの年齢階層が均等に分布している。

○ A委員

「老人クラブ」という名称について検討することも必要なのかもしれない。また、認知症対策についてだが、今後重要な部分になってくると思う。この認知症対策について、現在のサービスに加えて新しいことに取り組むことを具体的に考えているのか。

○ 事務局

今後のことについては協議会の中で意見を伺いながらその内容を検討していきたいと考えている。今年度については、認知症に限らず介護する家族の方への支援ということで、介護家族の支援のあり方と実践について研修を予定している。

○　A委員

認知症対策については、単発ではなく継続的な支援が必要だと感じている。その方々が持っている能力をいかに引き出して活動に結びつけ、達成感を得るようなかたちにもっていくかということが非常に大事ではないかと考えている。

処遇改善交付金について、事業者によって取っているところとそうでないところがあるようだが、それによって定着率に違いが出ているのか分かる範囲で良いので教えてもらいたい。

○　事務局

処遇改善交付金については、県のまとめでは、県内で約８割程度の事業所が申請をしていると出ている。地域密着型と言われる施設に対しては、申請していない理由を直接うかがったことがあるが、対象職種以外の職種の職員とのバランスが取れないからという意見があった。ただ、申請しない理由や定着率の違いなどについては詳細には分かっていない。

○　C委員

介護職のうち一部のみにしか適応できないこと、内部での教育体制を維持していくことが難しいこと、２４年度以降の取扱いが不明であることなどの理由から、事業者によって二の足を踏むところもあるのではないかと思う。

○　B委員

単年度の事業というのは、申請し難いということは確かにあると思うが、アンケートを見て、事業者の７０数パーセントがキャリアパス要件を満たしている結果が意外だった。

活動参加と老人クラブについては大切なテーマなので、他にも意見があれば聞きたい。アンケートを見たところ、高齢者の方々が普段なかなか外出をしていないというのも気になる。老人クラブ参加については、やはり自分自身を老人だとは思ってないところにも理由の一端があるようにも感じる。

○　D委員

老人クラブやおたっしゃクラブについては適宜声かけをしている。旧久留米市以外では参加率が高い傾向にあるが、中心街は声かけをしにくく参加率も低くなりがちである。このように地域差があるように思うので、データを基に対策を講じることが出来ればと思っている。

○　B委員

周辺旧４町と比べて市街部の方がコミュニティができにくいという事情は確かにあるように思う。

○　Ｅ委員

老人クラブの加入者は年々減っているように思う。今は７０歳になっても老人クラブに入ってくれない。自分のことを老人ではないと思っている。そのため、私の地区では、老人会という名称を外して活動している。

また、商売や仕事をしている人としていない人の意識の差もあるように思う。商売や仕事をしている人は、なかなか時間が取れないということもあるようである。

それから、オートロックのマンションが増えているので民生委員が入りにくいという事情も影響しているように思う。

○　Ｂ委員

昔に比べて社会の実情が変わってきているのであれば、それに応じて対応をしていく必要もあると思う。

○　Ｆ委員

老人クラブの名称の変更については、以前から議題として挙がってはいるが、今もそのままになっているのが現状である。ただし、各校区においては、例えば「福寿会」というような名前で活動しているところもある。何れにしても若手リーダーを作ることが重要であり、その人のもとで活動を盛り上げていくことが大切であるように思う。

○　Ｇ委員

アンケート結果によると、介護している人の年齢が４０～６４歳と若いように思う。もし、寝たきりになった場合には自宅で介護できるかという設問はあるのか。寝たきりの方の介護を急にすることになり、まだ仕事をされているので自宅で介護することができないため、施設がないだろうかという相談が非常に多くなったと感じる。

○　事務局

そのような設問は盛り込んでいない。

○　Ｇ委員

家族は施設で、本人は在宅で、というそれぞれの意向が違う場合があるので、なかなか対応することは難しいようである。そのような設問があればと思い質問した。

○　Ｈ委員

これから地域包括ケアというものが求められてくると思うが、圏域ごとにどれだけニーズが充足しているのかを把握されているか。

また、第４期計画の課題と第５期計画の課題がほとんど一緒のものがある、どうして同じ課題が出てくるのか。

○　Ｄ委員

地域包括ケアについては医療と介護の連携のもと、施設部会の発足など具体的に動き出している部分もあるが、市でコーディネートしていただく必要がある部分もある。

久留米市は活動できる地盤はあると思っており、全国的にモデルになるような取組をしたいという気持ちはあるので、市でもぜひ対応して欲しいと思う。

○ Ｃ委員

少し前のご意見があった在宅での介護という問題だが、当事者の気持ちに反してとても難しいものであると感じている。

第４期計画のどこを見直すのかという論点が明確になっていないと、この会議で話し合う意味合いが薄れてくるように思う。今回のアンケート結果を踏まえた上で、第４期計画で見直すべきところと第５期計画でより強化していきたいところを１点ずつ聞かせて欲しい。

○ 事務局

基本的には現行計画の課題を継承していく部分は多いのではと考えている。また、さきほどから話に出ている老人クラブの件や、新しい介護サービスに対する部分についても、事業所の意向やこの協議会でも協議を重ねながら対応を考えていきたいと思う。

○ Ｂ委員

課題の積み残しの部分というものは出てきてしまうかもしれないが、どうして積み残してしまったのかという検証をすることが重要であると思う。

○ Ｉ委員

施策を考えるための調査であるのであれば、もう少し議論の的を絞るべきだと思う。また、女性に対する施策についても検討して欲しいと思う。介護の問題でも女性の介護者が多いということもデータで出ているようである。

○ 事務局

実態調査結果についても、国の基本指針に沿って今後検証していきたいと思う。

２．団塊世代の意識・実態調査の実施について

【事務局】資料２説明

○　Ｊ委員

団塊の世代が要介護者になったとき、介護の面で本当に大丈夫なのかといったことを把握する項目があれば良いと思う。

○　Ｉ委員

介護予防だけではなく、今現在介護している人に対しての質問もしてほしい。市民意識調査とは異なる特徴のある設問があれば良いと思う。

○　Ｂ委員

介護保険制度のありかた、あるべき姿についても分析してもらいたいと思う。

○　Ｇ委員

すでに介護サービスを受けられている人に対しての配慮も必要だと思う。対象者を絞ったりすることも考えてみてはどうだろうか。

○　Ｄ委員

ボランティア活動について、より具体的な聞き方をして、ニーズの把握・分析をして欲しい。

○　Ｂ委員

団塊の世代の場合、自分で積極的に行動をおこしていくのか、受身になってしまうのか、聞き方によっては微妙なところなので、設問には配慮が必要だと思う。

○　事務局

設問を作る際に、団塊の世代の方々に、職場から地域へ活動の場を移し、どうやってがんばっていただくかという部分に意識が向きすぎていた部分もあると思う。介護をするということや介護ボランティア等についても配慮した設問としたいと思う。

３．介護サービス見込み量推計及び保険料算定の流れ

【事務局】資料３説明

○ A委員

「現在の高齢者に限らず将来の高齢者も含めたライフステージに応じた健康づくりの推進」というのはとても素晴らしいと思う。ここにかかる費用を、介護保険料を算出する中でどのように組み込んでいくのか。健康づくりに関する費用も介護保険事業費に含まれているのか。

○ 事務局

一部は含まれている。現在の元気な高齢者が要介護状態にならないための事業はもちろんある。地域支援事業や包括的支援事業、認知症関連の事業についても見込んでいる。

また、地域支援事業を行う財政規模としては、保険給付費見込額の３％以内で行うよう、国が定めている。

○ B委員

介護予防事業の実施についての話が以前あった。３％以内で良いのかという気もするし、介護予防に対する効果の検証も課題だと思う。

○ H委員

平成１７年度に平成２６年度を目標に計画を策定した。第５期計画は最終計画年度となるが、現時点での状況・結果を前提にして検討しなくてはいけないように思う。

○ 事務局

平成２６年度の数値的な目標については、すでに撤廃された参酌標準等で示すことが可能である。先ほど指摘があったように、第４期の課題がそのまま残っているという部分もあると思う。その部分も含めて、久留米市としてそれぞれの分野でどのような事業を行ってきたのか、またそれに対しての進捗状況や評価についても、今後説明していきたいと考えている。

■ その他

○ 事務局

次回の協議会について、基本指針のポイントについて説明したいと思っている。なお日程は８月２３日(火)を予定している。